

接続語「ちなみに」の意味・用法

劉 怡 伶*

キーワード: 「ちなみに」、付け加え、参考価値、〈認知環境〉

要 旨

本稿は、「ちなみに」の意味・用法を明らかにすることを目的とするものである。

「ちなみに」に関する従来の記述を見ると、「ちなみに」は前件に対し、関連のあることを参考までに付け加えるものであると述べられている。しかし、後件についてはどのような制限があるかが説明されていないため、「ちなみに」を用いてどのような後件を付け加えることができるかは分からない。また、従来の記述で説明できない「ちなみに」の用法もある。本稿は、そこで、この二つの問題に着目し、「ちなみに」には「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」、「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」及び「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」との三つの用法があることを明らかにする。また、各用法を貫く基本的意味に関して、「ちなみに」は、前件で言い残した内容の一部を付け加えるために用いられるのではなく、聞き手との間での〈認知環境〉の異なりを整えることにより、話の流れに聞き手をひきこむために用いられるものであることを述べる。そして最後に、「ちなみに」を使えない文を取り上げ、本稿で提出した「ちなみに」の意味・用法の記述がこれらの文も説明できることを示す。

1. はじめに

本稿は、接続語¹「ちなみに」の意味・用法を明らかにすることを目的とするものである。

「ちなみに」に関する従来の記述には森田(1980: 299)、横林・下村(1988)、グループ・ジャマシイ(1998)などがある。各記述をまとめると、おおむね次のようになる。

* LIU Yiling: 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻後期課程。

¹ 日本語の「接続詞」の定義は、学者の間で一致する見解が得られていないのが現状である。また、品詞論では、接続詞に分類されるかどうかに関し、異論のある言語形式もある。しかし、こうした品詞論上の「接続詞」をめぐる問題を論じるのは本稿の目的ではない。ここでは便宜上、次の二つの基準をともに満たす言語形式を「接続語」と呼ぶことにする。

a. 前件(先行文の意味内容)と後件(後続文の意味内容)の関係を具体的に示す機能を持っている。

b. 当の言語形式は省略されても、先行文と後続文の意味・構造に支障をきたさない。

注意すべきことは、ここでの文(先行文と後続文)の意味内容が、文の文字通りの意味(sentence meaning)ではなく、話し手の意図している内容、言い換えると、発話の意味(utterance meaning)をさすことである(Blakemore(1992))。

(1) 「ちなみに」: ある事柄を述べたついでに、それに関連のある説明や補足を参考までに付け加える。

しかし、下の例(2)では、話し手が「十分準備をしておいてください」という聞き手への期待を持っていることを「参考までに」付け加えていると言えないことはないが、この場合には「ちなみに」を用いることはできない。

(2) 明日国語の試験をします。ちなみに、十分準備をしておいてください。

例(2)から、「ちなみに」で付け加えられる後件には何らかの制限があることが窺える。しかし、従来の記述はこの点について何の説明もしていない。よって、(1)のような従来の記述では不十分であると言える。

また、もし「ちなみに」の後件が、本当に前件に「関連のある説明や補足を参考までに付け加える」ものであるとすれば、「ちなみに」の後件は、何らかの情報でなければならないはずである。しかし、例(3)で示すように「ちなみに」の後件は、疑問文の場合もある。つまり、相手に情報提供を求めている場合にも「ちなみに」を用いることができる。そのため、(1)のような従来の記述はすべての「ちなみに」の用法を説明することができないと考えられる。

(3) 確認成功おめでとうございます。(略)。同じ岡山県内でも見え方に地域差があるみたいですね。ちなみに長谷川さんは、どちらでご覧になったのですか？

(http://www.urban.ne.jp/home/mishima/iridium_bbs.htm)

森田(1980: 300)は「ちなみに」と「ついでに」とを比較し、(1)の記述に、更に次のような説明を加えている。

(4) 「ちなみに」: 今まで述べてきた主題について関連する事柄をその機会と一緒に述べるという、同主題での脇道脱線意識である。

「ついでに」: その主題から連想される別の主題について話を脱線させるという意識である。

確かに、「同主題」か「別の主題について話を脱線させる」という観点から、「ちなみに」と「ついでに」とを区別することができると考えられる。つまり、森田(1980: 300)のこの記述は、「ちなみに」と「ついでに」の意味・用法の区別に貢献すると言える。

森田(1980: 300)の示しているように、例(5)において、話し手は前件の主題(日本の物価)から別の主題(住宅問題)に話を脱線させようとしている。この場合には、「ちなみに」を用いることはできないが、「ついでに」を用いることはできる。よって、森田(1980: 300)の説明の通り、例(5)のような「別の主題について話を脱線させる」場合には「ちなみに」を用いることができないと考えられる。

(5) 日本は物価指数が世界一位という大変住みにくい国であります。ついでに / ちなみに、住みにくさ

という点で住宅問題に触れてみたいと思います。(森田(1980: 300))

しかし、例(1)のような従来の記述に、「同主題での脇道脱線意識」という説明が付け加えられていても、つまり、ある事柄を述べたついでに、同主題での脇道脱線意識の下で、それに関連のある説明や補足を参考までに付け加えるという場合に用いるというような説明になっていても、この説明からは、「ちなみに」で付け加えられる後件にどのような制限があるのかは分からない。森田(1980: 300)の記述は依然として不十分であると言える。

以上見てきたように、「ちなみに」には従来の記述では説明できない用法がある。また、「ちなみに」の後件にどのような制限があるかという点も説明されていない。従って、これらの点を明らかにすることは「ちなみに」の意味・用法を記述する際の重要な課題であると言える。本稿では、そこで、前述した点に着目し、「ちなみに」の意味・用法の記述を行うことにする。

なお、接続語の先行文と後続文が同一の話手の発話に属する場合の用法(「独話型」と呼ぶ)と、それぞれ異なる話手の発話に属する場合の用法(「対話型」と呼ぶ)があるが、両者に相違が認められることがある²。「ちなみに」にも「独話型」と「対話型」の二つの用法があるので、その意味・用法を考察する際に両方とも考察すべきである³。しかし、本稿では、考察の範囲を「独話型」に限定することにする。

なお、本稿の扱う資料には、一方的に叙述するタイプの文章・談話と双方向的なやりとりのある文章・談話がある(『毎日新聞 '96』CD-ROM版、『新潮文庫の100冊』CD-ROM版、インターネットのサーチエンジン goo (<http://goo.ne.jp>)を利用して収集したもの、国会会議録(<http://kokkai.ndl.go.jp/>)など)。これらの用法を考察した結果、「ちなみに」の意味・用法は次のようなものであることを述べる。

(6) 「ちなみに」の意味・用法

- 「ちなみに」は、前件で言い残した内容の一部を付け加えるために用いるのではなく、聞き手との間での〈認知環境〉の異なりを整えることにより、話の流れに聞き手をひき込むために、次の1か2の状況の下で用いられるものである。

状況1 話し手が前の発話を述べた後、「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報」または「先行した発話の伝達目的を達成するための情報」を、聞き手に伝える時に用いられる。

状況2 話し手が前の発話を述べた後、「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄」を、聞き手に伝えたり、または聞き手に提供してもらったりする時に用いられる。

² ここでの「対話型」と「独話型」という用語は蓮沼(1991)に従うものである。接続語の「対話型」と「独話型」に関する論文には、蓮沼(1991)、沖(1996, 1997)、赤羽根(1995)などがある。

³ 例えば、「ちなみに」には次のような「対話型」の用法がある。

(i) A: いえ、どなたでも参加していただけます。

B: ちなみに参加料、幾らか教えていただけますか。(ATR)

2. 「ちなみに」の用法

2-1. 「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」

本節では、「ちなみに」は「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」という用法を持っていることを述べる。

- (7) ついに五番備えの森可成の隊までが崩れ立ちはじめた。森可成は齋藤道三の家来で、齋藤家滅亡後、信長がまねき、美濃兼山の城主とした。ちなみにのちに信長の寵愛を受ける森蘭丸はこの可成の二男である。(『国盗物語』p. 2937)
- (8) 第2章で考察した認知スケールに対し、これらを D スケール (Deontic Scale) と呼ぶことにする。この D スケールは Deontic Modality の理論建設に役立つに違いないと思われるので、英語の大文字を使うことにする。ちなみに、Deontic Modality については、まだ英語圏の言語学者の間でも一致した定義がないというのが実情なのである。(『モダリティと発話行為』p. 72)

(7)(8) は「ちなみに」の実例である。例(7)から、話し手は前件で「信長の城主である森可成の軍隊が崩れ立ちはじめた」と述べているのに対し、後件では前で述べた物語の内容の一部になっていない「森蘭丸と可成との関係」について述べていることが観察される。

また、例(8)から、話し手は前件で「D スケール」について述べているのに対し、後件では、前で述べた「D スケール」に関する説明内容の一部になっていない「Deontic Modality」について述べていることが観察される。

なぜ(7)(8)の話し手はそれまで述べた内容の一部でない説明を「ちなみに」を用いて付け加えているのだろうか。(7)の後件は、歴史上の人物「森蘭丸」とそれまでの話題の中に出てくる「森可成」との関係について説明している。「森蘭丸」は日本人によく知られている人物である。よって、(7)の話し手は皆に熟知されている歴史上の人物「森蘭丸」とそれまでの話題の中に出てくる人物「森可成」との関係を取り上げることによって、話題の人物に対する聞き手の理解を促そうとしていると考えられる。

一方、(8)の話し手は後件で、それまでの話の中に出てきた「Deontic Modality」について更に補充説明している。ここでも(8)の話し手は、前の話の中に出てきた「Deontic Modality」についての説明を加えることによって、話題の「D スケール」に対する聞き手の理解を促そうとしていると考えられる。

例(7)(8)から、「ちなみに」には、前件で述べた物や人物への聞き手の理解を促す情報を付け加える用法があることが分かった。本稿では、このような「ちなみに」の用法を「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」と呼ぶことにする。

以上の考察で、「ちなみに」には「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」という用法があることが明らかになった。「ちなみに」は「前件に関連のある事柄を参考まで

に付け加える」時に用いられるものであると従来は記述されているが、後件のいわゆる「参考価値」⁴については記述されていない。本節で、この場合の「ちなみに」の後件は、「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促すことができる」ことが観察された。従って、その「参考価値」はここにあると言えよう。

2-2. 「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」

本節では、「ちなみに」は、「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」という用法を持っていることを示す。

(9) Windows 95の起動時のパスワードは…(略)…その個人環境を保護する目的のものです。使用自体を制限したいのなら、素直に Windows NT などのセキュリティ機能のしっかりした OS を導入しましょう。ちなみに、Windows 95のパスワード画面は ESC キーでもキャンセル出来ますし、HDD 自体も DOS の FAT 形式を拡張した VFAT 形式で記録されているので、DOS をフロッピー起動すると簡単に HDD の中も覗けてしまいます。

(http://www.bremen.or.jp/shin1/trub/pass_4.html)

(10) (略)今では、ミラノを訪れる日本人の数は、年間 50 万人と言われていました。それに伴い、旅券、貴金属、現金等の被害に遭う旅行者も後をたたず、旅行者の方々には十分気をつけて頂きたいと思えます。ちなみに、97年の旅券の盗難件数は年間 400 件を超えております。

(http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/zaigai/zai_101.html)

上の例(9)の話し手は前件で聞き手に、WindowsNTなどのセキュリティ機能のしっかりしたOSを導入することを助言しており、後件では、セキュリティシステムを導入しない場合、セキュリティ上、どのようなことが起り得るかを説明している。また、例(10)の前件では、話し手は盗難の注意を呼びかけており、後件では、97年の旅券の盗難件数について述べている。

(9)(10)の「ちなみに」は一見前節で紹介した「ちなみに」の用法と同じようである。しかし、どちらの場合でも、話し手は前件で言及した物や人物を聞き手により理解してもらうために、「ちなみに」を用いて後件を付け加えているとは考えられない。従って、(9)(10)の「ちなみに」は前節で述べた「ちなみに」の用法と異なるものであることが分かった。

(9)(10)の話し手が「ちなみに」でどのような後件を付け加えているかを見るために、まず、それぞれの後件の付け加えられていない場合を考えてみよう。(9)の後件が付け加えられなければ、聞き手はセキュリティシステムを導入しない場合、セキュリティの面でどのようなことが起り得るかを想像するのは難しいと考えられる。要するに、聞き手はなぜ話し手が前件で「セキュリ

⁴ ここでの「参考価値」とは、「ちなみに」で付け加えられる後件が、話し手の伝えようとする意味への聞き手の理解、話し手の発話の伝達目的の達成、会話の展開などにどのような効果をもたらすかということである。

ティシステムを導入」することを助言しているかを理解するのは難しいと考えられる。

助言の理由が説明されなくても、助言の目的(つまり、聞き手に助言を受け入れてもらう目的)は達成できるかもしれないが、助言の理由の説明があった方がその目的の達成がより期待できると考えられる。よって、(9)の話し手が前件の後ろに後件を付け加えるのは、前の発話の伝達目的を達成するためであると言える。つまり、(9)の「ちなみに」は、前の発話の伝達目的を達成するための情報を付け加えているのである。

次に、(10)の話し手は前件で「盗難が頻繁に発生している」ことを述べ、旅行者に盗難の注意を呼びかけてはいるが、もし、その後ろに後件を付け加えなければ、盗難問題の深刻さを聞き手に理解してもらうのは難しいと考えられる。そのために、盗難注意の呼びかけの目的が達成できない可能性があると考えられる。よって、(10)の話し手が「ちなみに」を用いて、後件で「盗難件数の実例」を付け加えるのは、盗難問題の深刻さを聞き手により理解してもらい、つまり、盗難に対する注意を促すためであると考えられる。よって、(10)の「ちなみに」も(9)と同様に、前の発話の伝達目的を達成するための情報を付け加えていると言える。

同じ用法は例(11)からも観察される。

(11) 私は、全く総理が言われたとおりでありまして、ただ学校教育の面におきましては、農業が我が国の重要な産業である、こういう認識のもとに、小中高等学校を通じて社会科を中心に農業への関心と理解を得させるように指導することといたしております。

ちなみに、今小学校五年生の社会科の本、ここに持ってまいっておりますが、よく後でござんになってください。ほとんど農業のお米のことについてよく書いてあります。(国会会議録 1991.4.3)

(11)の話し手は前件で「小中高等学校を通じて社会科を中心に農業への関心と理解を得させるように指導している」と説明している。ここでもし、(11)の後件が付け加えられなければ、前件で説明したことが本当のことであることを聞き手に理解してもらえない可能性がある。そのため、(11)の話し手は後件で「教科書を持ってきているが、見てください」、つまり、「物証が提出できるよ」と説明を付け加えることにより、聞き手に前件で述べた説明をより信じてもらうことを狙っていると考えられる。よって、(11)の「ちなみに」も(9)(10)と同様に、前の発話の伝達目的を達成するための情報を付け加える用法であると言える。

例(9)~(11)から、「ちなみに」には、前の発話の伝達目的を達成するための情報を付け加える用法があることが分かった。本稿では、本節で見たような「ちなみに」の用法を「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」と呼ぶことにする。

以上の考察で、「ちなみに」には前節で述べた「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」という用法以外にも、「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」という用法があることが明らかになった。森田(1980: 299)は、「ちなみに」の用法に対し

て、「事のついでにそのこともこの場で述べて、相手に知らせておく」という親切心がある」と述べている。しかし、本節で見てきたように、この場合の「ちなみに」の用法は、「話し手の親切心で相手にことを知らせておく」とは考えられない。なぜなら、先述したように、後件が「ちなみに」で付け加えられなければならない、前の発話の伝達目的が達成できない恐れがあるからである。要するに、この場合の「ちなみに」の後件は、話し手が聞き手のために親切に付け加えているというより、むしろ自分の前の発話の伝達目的を達成するために付け加えていると言える。この場合の後件の「参考価値」はここにあると言えよう。

なお、本節と前節で述べた「ちなみに」の用法は一方向的に叙述するタイプの文章・談話の中にも双方向的なやりとりのある文章・談話の中にも用いられるものである。続く2-3.では、専ら双方向的なやりとりのある文章・談話の中に用いられる「ちなみに」の用法について述べる。

2-3. 「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」

本節では、双方向的なやりとりのある文章・談話の中に用いられる「ちなみに」には「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」という用法があることを述べる。

(12) 君が好きな漫画はなんだい？ ちなみに私が好きな漫画は EVA なのさ。

(<http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/kyouiku/ichu/doso98.html>)

(13) (略)イギリスにおいては、中学校三年生の段階で大体二、三週間福祉施設に出向いてボランティア活動することがカリキュラムとして組み込まれておりますので、そういった事例も参考にしながら、とりわけ本当に中学生、高校生といった段階でのボランティア活動を推進していただきますようお願い申し上げます。ちなみに、奥田大臣はボランティア活動はしておりますでしょうか。(国会会議録 1996.2.22)

(12)(13)は「ちなみに」の実例である。(12)の話し手は前件で聞き手の好きな漫画を尋ねており、後件で自分の好きな漫画について説明している。

ここで、(12)の後件は、前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報ではないと考えられる。なぜなら、「ちなみに」を用いて、「自分の情報(好きな漫画)」を付け加えることにより、聞き手に前の質問をよく理解してもらえとは考えられないからである。また、(12)の後件は、前の発話の伝達目的を達成するための情報でもない。なぜなら、(12)の後件が付け加えられなくても、聞き手が前の質問を理解できずに、答えられないことはないからである。よって、(12)の「ちなみに」は2-1.と2-2.で述べた「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」という用法でも「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」という用法でもないと言える。

一方、(12)と同様に、(13)の「ちなみに」も今まで見てきた「ちなみに」と異なる用法であると考えられる。

(13) の話し手は前件で「ボランティア活動を推進する」ことを助言しており、後件で聞き手に「ボランティア活動の経験」について尋ねている。質問は情報を求めるものであり、情報を与えるものではない。従って、質問を付け加えることによって、前件で言及したものを聞き手により理解してもらえとは考えられないし、また、前の発話の伝達目的を達成することができることも考えられない。

では、(12)(13) の話し手は「ちなみに」を用いて、何を付け加えているのだろうか。例(12)をもう一度見ると、話し手は聞き手の好きな漫画を尋ねた後、自分の好きな漫画を説明しており、(13)の話し手は、ボランティア活動の推進についての自らの意見を述べた後、相手のボランティア活動の経験を聞いている。要するに、(12)(13)の話し手はある話題について述べた後、同じ話題に関する自らの考えを述べたり、聞き手に情報を求めたりしていると言える。同話題についての自らの考えを付け加えたり、相手に情報を求めたりすることによって、互いの持っている考えや情報への理解を促すことができると考えられる。よって、(12)(13)の「ちなみに」は、会話参加者間の情報交換や意見交換を促す事柄を付け加えていると言える。

既に見た例(3)の「ちなみに」も(12)(13)と同様の用法である。下に再掲する。

(14) 確認成功おめでとうございます。(略)。同じ岡山県内でも見え方に地域差があるみたいですね。ちなみに長谷川さんは、どちらでご覧になったのですか？(例(3)を再掲)

(http://www.urban.ne.jp/home/mishima/iridium_bbs.htm)

例(14)の話し手は前件で「天体を観測する時、同じ岡山県であっても地域差があるみたい」という自らの判断を述べており、後件では、聞き手に「どこで観測したか」と尋ねている。この場合、話し手は自らの判断を述べた後、話題に関する聞き手の情報を求めることによって、互いの持っている考えや情報への理解を促そうとしていると考えられる。よって、(14)の「ちなみに」も(12)(13)と同様に、会話参加者相互の情報交換や意見交換を促す事柄を付け加えていると言える。

(12)～(14)の話し手は「ちなみに」を用いて会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄を付け加えることにより、聞き手との会話展開を促そうとしているとも考えられる。そのため、この場合の「ちなみに」の用法は双方向的なやりとりのある文章・談話の中にしか用いることができないと思われる。本稿では、このような「ちなみに」の用法を「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」と呼ぶことにする。

以上の考察で、双方向的なやりとりのある文章・談話の中の「ちなみに」には、「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」という用法があることが明らかになった。「ちなみに」についての従来の記述は、「関連のある事柄を参考までに付け加えるもの」であると説明しているが、その後件の「参考価値」については説明されていない。本節では、双方向的なやりとりのあ

る文章・談話の中に用いられる「ちなみに」の後件は会話参加者の情報交換や意見交換を促すことができる考える。従って、この場合の後件の「参考価値」は「会話参加者の情報交換や意見交換を促すことができる」ところにあると考えられよう。

3. 「ちなみに」の基本的意味

本節では、今までの考察結果に基づき、各用法を貫く「ちなみに」の基本的意味を述べる。

3-1. 「ちなみに」の基本的意味

以上の考察で、「ちなみに」は(15)にあげる三つの用法を持っていることが明らかになった。

(15) 「ちなみに」の用法:

- 「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報への言及」
- 「先行した発話の伝達目的を達成するための情報への言及」
- 「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄への言及」

また、「ちなみに」は二つの状況の下で使われるものであることも明らかになった。一つは、一方的に叙述するタイプの文章・談話の中で使われる状況であり、話し手が前の発話を述べた後、「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報」または「先行した発話の伝達目的を達成するための情報」を、聞き手に伝えるのである。もう一つは、専ら双方向的なやりとりのある文章・談話の中で使われる状況であり、話し手が前の発話を述べた後、「聞き手との情報交換や意見交換を促す事柄」を聞き手に伝えたり、或いは、聞き手に提供してもらったりするのである。

注意すべきなのは、どちらの状況であっても、話し手が「ちなみに」を用いて、前件で言い残した内容を付け加えるのではないということである。「話を付け加える」用法というと、前件で言い残した内容を後件で付け加えるのであると思われるが、「ちなみに」は、このような用法をもっていない。これは下の例(16)(17)から明らかである。

(16) A: 図書館の開館時間を教えていただけませんか。

B: 平日は午前9時から午後8時まで。?ちなみに、土日は午後5時までです。

(17) A: 図書館の開館時間ですが、平日は午前9時から午後8時までです。

?ちなみに、土日は午後5時までです。

(16)の話し手 B は前件「平日は午前9時から午後8時までだ」の後ろに、「土日の開館時間」を付け加えている。また、(17)の話し手 A は前件「平日は午前9時から午後8時までだ」の後ろに、「土日の開館時間」を付け加えている。どちらの場合も、付け加えられる「土日の開館時間」は、話し手の伝えようとする内容(「図書館の開館時間」)の一部、つまり、前件で言い残した

内容の一部である。この場合には「ちなみに」を用いると不自然に感じる。よって、「ちなみに」は、前件で言い残した内容を付け加える用法をもっていないことが分かった。

「ちなみに」と同様に、前件に対して後件を付け加える用法をもつ接続語「ただし」には、「ちなみに」と異なり、前件で言い残した内容の一部を付け加える用法がある。例えば、(18)(19)で示すように、どちらの場合にも「ただし」を用いることができる。よって、前件に対し、言い残した内容を付け加えることができるか否かは、同じ後件を付け加える用法をもつ「ただし」と「ちなみに」とを区別する際の重要なポイントの一つであると考えられる⁵。

(18) A: 図書館の開館時間を教えていただけませんか。

B: 平日は午前9時から午後8時まで。ただし、土日は午後5時までです。

(19) A: 図書館の開館時間ですが、平日は午前9時から午後8時までです。

ただし、土日は午後5時までです。

ここで、一つ重要な問題が残る。それは、なぜ話し手が進行中の話の流れをしばらく止めて、一見「脱線」しているように、伝えようとする内容の一部でないものを「ちなみに」を用いて付け加えるのかということである。本稿は、「ちなみに」の各用法を貫く基本的意味に関して、Sperber and Wilson, D. (1995) の提出した〈認知環境〉(cognitive environment) という概念を用いて説明できると考える。

〈認知環境〉とは、ある時点である個人にとって顕在的 (manifest) な事実の集合体のことである。簡単に言うならば、それは、我々が周りの事物をどのように認知しているか、例えば、何をどのように見えているか、聞こえているか、感じているか、考えているか、などといった心的状態のことをさす⁶。

Sperber and Wilson, D. (1995) によれば、話し手は言葉を発することによって聞き手の〈認知環境〉を変えようとしているという。「ちなみに」の各用法をもう一度考えてみると、各後件は話し手の伝えようとする内容の一部ではないが、こうした後件を付け加えることによって、聞き手の〈認知環境〉を変えられることができると考えられる。すると、これらの後件(「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報」または「先行した発話の伝達目的を達成するための情

⁵ 但し、下に示すように、「ちなみに」と「ただし」の両方も用いることができる場合がある(下例の斜線 (/) の後ろにある「ただし」は筆者によるものである)。

(i) ユーザーにすべての操作をボタンで行わせたいのですが、キー表示で出てくるファンクションの幾つかを使用させない為にはどの様にしたら良いのでしょうか?

ちなみに / ただし, ENTER と TAB と SCROLL だけは使用出来るようにしたいです。

(<http://developer2k.hypermart.net/beginner/messages/487.html>)

この例から「ちなみに」と「ただし」とは類似した用法を持っていることが窺える。「ちなみに」の意味・用法を明らかにするには、接続語「ただし」の意味・用法上との類似点と相違点も考察すべきであるが、この問題は今後の課題にしたい。

⁶ 詳しくは Sperber and Wilson, D. (1995) を参照されたい。

報」,「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄」)は伝えようとする内容の一部を付け加えることはできないが、話し手と聞き手との間での〈認知環境〉の異なりを整えることにより、聞き手を話し手の作った話の流れにひきこむことができると考えられる。話し手が「ちなみに」を用いて後件を付け加える狙いはここにあると言える。よって、「ちなみに」の各用法を貫く基本的意味はここにあるとも言えよう。

3-2. 「ちなみに」の使えない文

本稿の最後には、先述した「ちなみに」の用法とその基本的意味に関する記述が「ちなみに」の使えない例についても説明できることを示す。

下の(20)(21)は「ちなみに」の使えない例である。

(20) 明日国語の試験をします。*ちなみに、十分準備をしておいてください。(例(2)の再掲)

(21) 今日は疲れました。*ちなみに、早く帰りたいです。

なぜこの二例には「ちなみに」が使えないかという点、(20)の話し手は「明日の国語の試験」についての説明をしているのである。つまり、(20)の「ちなみに」の前件「明日の試験の予定」と後件「明日の試験を十分準備しておいてください」はともに伝えようとする内容の一部になっていると考えられる。また、(21)の「ちなみに」の前件「今日は疲れた」は後件「早く帰りたい」の原因であり、つまり、(21)の前件と後件も話し手の伝えようとする内容の一部になっているのである。3-1.で述べたように、「ちなみに」は前件で言い残した内容の一部を付け加えるために用いるものではない。よって(20)(21)のような場合には「ちなみに」を用いることができない。

最後に、「ちなみに」の後ろにどんな発話・伝達の機能を果たす文を取り得ないかという問題であるが、本稿2.から3.にわたって取り上げた例から、「ちなみに」の後ろには、「働き掛け」「述べたて」「問いかけ」といった発話・伝達の機能を果たす文を取り得ることが観察される。下に再掲する(例(22)(23)(24)の「ちなみに」の後ろにそれぞれ「働き掛け」「述べたて」「問いかけ」といった発話・伝達の機能を果たす文を取っている)。

(22) 私は、全く総理が言われたとおりでありまして、ただ学校教育の面におきましては、農業が我が国の重要な産業である、こういう認識のもとに、小中高等学校を通じて社会科を中心に農業への関心と理解を得させるように指導することといたしております。

ちなみに、今小学校五年生の社会科の本、ここに持ってまいっておりますが、よく後でござらんになってください。(略)(例(11)の再掲)

(23) ついに五番備えの森可成の隊までが崩れ立ちはじめた。森可成は齋藤道三の家来で、齋藤家滅亡後、信長がまねき、美濃兼山の城主とした。ちなみにのちに信長の寵愛を受ける森蘭丸はこの可成の二男である。(例(7)の再掲)

(24) 確認成功おめでとうございます。(略)。同じ岡山県内でも見え方に地域差があるみたいですね。ちなみに長谷川さんは、どちらでご覧になったのですか？(例(3)の再掲)

また、(25)で示すように「ちなみに」の後ろには「表出」といった発話・伝達の機能を果たす文も取り得ることが観察される。

(25) 私は、全く総理が言われたとおりでありまして、ただ学校教育の面におきましては、農業が我が国の重要な産業である、こういう認識のもとに、小中高等学校を通じて社会科を中心に農業への関心と理解を得させるように指導することといたしております。

ちなみに、今小学校五年生の社会科の本、ここに持ってまいっておりますが、後でござんになっていただきたいです。

例(22)～(25)から、「ちなみに」の後文は前述したように、前件で言い残した内容の一部ではなく、「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報」または「先行した発話の伝達目的を達成するための情報」または「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄」であれば、「働き掛け」「表出」「述べたて」「問いかけ」といった発話・伝達の機能を果たす文を取っても可能であることが分かった。

しかし、(26)に示すように、「ちなみに」の後ろに「感嘆文」を取ることはできない。

(26) 空が真っ青だ。*ちなみに、綺麗な花だなあ。

「感嘆文」は、特定の聞き手に語りかけるものではなく、話し手自らの感動や驚きの気持ちを表すものである⁷。先述したように、「ちなみに」は聞き手との〈認知環境〉の異なりを整えることにより、話の流れに聞き手をひきこむために用いられるものである。話す相手が自分自身である場合、〈認知環境〉は無論全く同じである、つまり、〈認知環境〉の異なりを整える必要がないと考えられる。そのため、「ちなみに」の後ろに「感嘆文」を取り得ないのである。

4. まとめと今後の課題

本稿の目的は、「ちなみに」の意味・用法を明らかにすることである。

1.で指摘したように、従来の記述では説明できない「ちなみに」の用法がある。また「ちなみに」の後件はどのような制限があるのかという点も従来は説明されていない。本稿はこの2点に着目し、「ちなみに」の意味・用法は次のようなものであることを述べた。

(27) 「ちなみに」の意味・用法

- 「ちなみに」は、前件で言い残した内容の一部を付け加えるために用いるのではなく、聞き手との間

⁷「感嘆文」については、益岡(1991)を参照されたい。

での〈認知環境〉の異なりを整えることにより、話の流れに聞き手をひきこむために、次の1か2の状況の下で用いられるものである。

状況1 話し手が前の発話を述べた後、「前件で言及した物や人物への聞き手の理解を促す情報」または「先行した発話の伝達目的を達成するための情報」を、聞き手に伝える時に用いられる。

状況2 話し手が前の発話を述べた後、「会話参加者の情報交換や意見交換を促す事柄」を、聞き手に伝えたり、または聞き手に提供してもらったりする時に用いられる。

しかし、本稿には幾つか残された課題がある。まず、1. で述べたように、「ちなみに」の意味・用法を明らかにするために、「独話型」だけでなく、「対話型」も考察対象にすべきであるが、本稿は単に「独話型」の考察に止まった。また、本稿の扱った談話資料は十分であると言えないため、ここで提案した「ちなみに」の意味・用法の記述を更に検討する余地があると認めざるを得ない。更に、「ちなみに」の意味・用法を明らかにするには、類似した用法をもつ接続語「ただし」も考察すべきであると考えられる。今後、これらの問題も視野に入れ、より一般性のある記述を行いたい。

参 考 文 献

- 赤羽根義章 (1995) 「注釈の接続詞に関する一考察——対話における機能について」『愛知教育大学研究報告(人文科学篇)』44, pp. 197-210.
- 沖 裕子 (1996) 「対話型接続詞における省略の機構と逆接——「だって」と「なぜなら」「でも」」『言葉と教育論集』中條修編, pp. 97-111, 和泉書院.
- (1997) 「新用法からみた対話型接続詞「だって」の性格」『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』31, 信州大学人文学部.
- グループ・ジャマシイ (1998) 『日本語文型辞典』, くろしお出版.
- 仁田義雄 (1989) 「現代日本語のモダリティの体系と構造」, 仁田義雄・益岡隆志編 『日本語のモダリティ』, pp. 1-56, くろしお出版.
- 蓮沼昭子 (1991) 「対話における「だから」の機能」『姫路獨協大学外国学部紀要』4号, pp. 137-153.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』, くろしお出版.
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語』2, 角川書店.
- 横林宙世・下村彰子 (1988) 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ6 接続の表現』, 荒竹出版.

Blakemore, D. 1992. *Understanding Utterance: An introduction to pragmatics*, Blackwell, Oxford. (武内道子, 山崎英一訳 (1994) 『ひとは発話をどう理解するか——関連性理論入門』, ひつじ書房).

Sperber and Wilson, D. 1995. *Relevance: Communication and Cognitive*, Blackwell, Oxford. (内田聖二, 中達俊明, 宋南先, 中田圭子訳 (1999) 『関連性理論——伝達と認知』, 研究社).

実 例 出 典

ATR (名古屋大学文学研究科に設置されている ATR 対話データベース) より
インターネットのサーチエンジン goo (<http://goo.ne.jp>) より

国会会議録 (<http://kokkai.ndl.go.jp/>) より

司馬遼太郎 (1995) 『新潮文庫の100冊』 CD-ROM 版, 新潮社より

中右実, 赤塚紀子, 塚本篤郎 (1998) 『モダリティと発話行為』, 研究社より

毎日新聞社 (1997) 『毎日新聞 '96』 CD-ROM 版, 日外アソシエーツより